

No.155

2007.11

まちづくら

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会



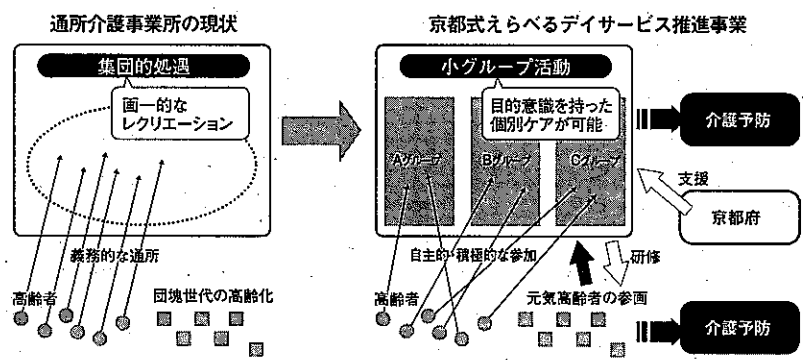
特集／学区の福祉活動・ボランティア活動に関する実態調査—ダイジェスト

- Volunteers京都／区災害ボランティアセンター
- 京都式えらべるデイサービス
- ふれあい会館のページ／桂坂学区社会福祉協議会「お話の会」
- ありがとう赤い羽根／新明塾 工房ソラ 山科教室(山科区)・ケアハウス久我の杜(伏見区)

表紙写真／御室老人デイサービスセンター(右京区)

京都式えらべるデイサービスに向けて

本会では市内、二カ所の老人デイサービスセンターで、京都府が普及している「京都式えらべるデイサービス」の取り組みをはじめとしています。これまで、レクリエーションは集団での取り組みがほとんどでしたが、多様なメニューから利用者が自分で選ぶことができ、活動意欲ががり自主的に参加することが期待されています。職員の意識改革も行ないながら、積極的に取り組む二つのデイサービスセンターを紹介します。



1 御室老人デイサービスセンター 将来は利用者との協働で、 社協らしい「えらべるデイ」を

「やらされている」から
「やっつけている」へ

以前から入浴の待ち時間を利用したサークル活動を行なってきた御室老人デイサービスセンターでは、「えらべるデイ」をサークルの延長線上の活動と位置づけ、今年の春から導入。貼り絵や手芸など、数種類のメニューから好きなものを「選ぶ」スタイルには利用者みなさんも慣れておられるためスムーズに取り入れることができ、今はひと月に一週間の割合で実施しています。

内容はサークル活動で行なってきたこととほぼ同じですが、「えらべるデイ」として活動するようになってからは、貼り絵を作った児童館へ贈ったり、当センターの夏祭りのおみこしや看板用の貼り絵を作るといった具合に、作品の発表の場が増えると、意欲も出てきます。「目的意識を持ったことで、利用者さんの様子が目に見えて変わってきたので、やらされている」のではなく、自主的に「やっつけている」という感じ。そういった前向きな取り組み姿勢を見ると、純粹にうれしいですね。

「選ぶ」ことが
強制にならないように...

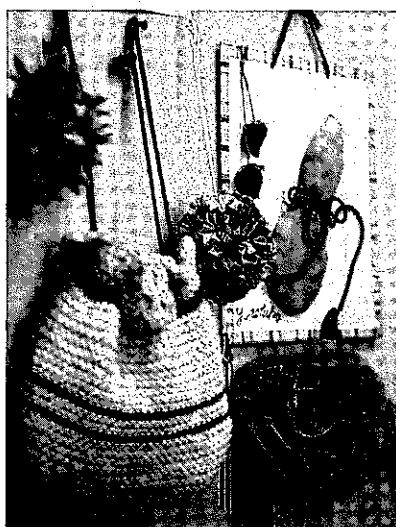
サークル活動の延長線上と
いうことで利点もある反面、
それゆえの問題点もあります。
サークル活動は現在も継続し
て行なっていますが、基本的
には任意の活動なので、希望
者だけが「選んで参加」する
自由な取り組みです。ところが
「えらべるデイ」は、でき
るだけ全員が目
的意識を持って
選ぶなければな
りません。「利
用者さんの中
には、判断能力
の低下などで「選
べない人」、面
倒くさいなどの
理由で「選ばな



水野施設長

い人”もおられます。そういった事情も踏まえ、自主性を重んじたうえで、「選ぶ」ことが強制にならないように配慮していかないと水野施設長。

個別レクにも集団レクにも、それぞれの良さがああります。社会交流を目的とされている



山科老人デイサービスセンターでは、今年二月からひと月のうちの一週間を「えらべるデイ」に充てています。メニューの選択はカラオケ、文化系、運動系と、大きく三つに分類。文化系は囲碁やマージャン、ちぎり絵、絵手紙、習字、編み物など、テーブルでできるものを各自が自由に選び、運動系は体操、ゲーム、散歩などを職員の指導のもと

自主的に取り組むことで意欲も向上

②山科老人デイサービスセンター 小グループでの活動を通して、 利用者の新たな一面を発見



利用者も多いので、そういった要素も大切にしていきたい。今はまだ「随時、中身を見直していきながら、ほちほち進化していければ…」という、発展途上の段階ですが、今後の展望の一つとして、利用者にもメニューの企画などに参加してもらい、杜協らしい「えらべるデイ」を協働でつくりあげていきたいとの思いを温めています。



に行きます。集団レクリエーションもこれまで通り継続し



伊東施設長（左）

ていますが、利用者の方々は「えらべるデイ」ならではの「自分で考えて選ぶ」ことを積極的に受け入れ、集団レクとの違いを楽しんでおられるようです。当センターが取り入れているのは、三カ月を一クールとして終了後に評価を行い、その結果を次のクールに生かしていく方式。今はまだ二クール目ですが、利用者には徐々に変化が現れています。マージャンを始めて指先の動きがスムーズになるなど、運動機能が向上した方、二クール継続して編み物の大作に挑戦したり、囲碁の碁石入れを自分で作ったり、意欲面での向上が見られる方など「同じこと

に比べて、今までは知らなかった利用者の新たな一面が見えてきたことです。伊東施設長は「できないと思っていたことが上手にできたり、お嫌いだと思っていたことが実はお好きだったり、新しい発見がいろいろあるんです。これは、利用者さん一人ひとりとゆっくりにお話ができるようになったから「選ぶ」というより、少人数の個別ケアによるメリットですね」と話し



利用者一人ひとりと、じっくり向き合っています

職員にとってのいちばんの収穫は、小グループで活動することにより、今まで知らなかった利用者の新たな一面が見えてきたことです。伊東施設長は「できないと思っていたことが上手にできたり、お嫌いだと思っていたことが実はお好きだったり、新しい発見がいろいろあるんです。これは、利用者さん一人ひとりとゆっくりにお話ができるようになったから「選ぶ」というより、少人数の個別ケアによるメリットですね」と話し



ます。

職員をしっかりとサポートしてくれるボランティアのお陰もあって、「えらべるデイ」導入にまつわる影響は、今のところおおむね良好。将来的にはレクリエーション全体を「えらべるデイ」に切り換えていくことも視野に入れています。ただしその一方では「すべて切り換えてしまうとメリハリがなくなるかもしれないし、職員の育成などにも時間がかかるし」といった課題も。もうしばらくは様子を見ながら、慎重に検討を重ねていく構えです。